



UTSUNOMIYA **Blitzen** TIMES

Race Report

- 04.16 かんせき真岡菅賀ロードレース
- 04.17 かんせき宇都宮清原クリテリウム
- 05.19 Tour of Japan 2022 SHINSHU IIDA
- 05.20 Tour of Japan 2022 FUJISAN
- 05.21 Tour of Japan 2022 SAGAMIHARA
- 05.22 Tour of Japan 2022 TOKYO
- 05.27 ツール・ド・熊野 赤木川清流コース
- 05.28 ツール・ド・熊野 熊野山岳コース
- 05.29 ツール・ド・熊野 太地半島周回コース

Special Present

地域貢献活動レポート
今日の沼野郎 小野寺 玲
Pick Up Goods & Race schedule

July.2022 **Vol.74**



三菱地所JCLプロロードレースツアー開幕戦 カンセキ真岡芳賀ロードレース 宇都宮ブリッツェン1・2フィニッシュ オノデラライダー優勝・増田準優勝

🏆 目指すは地元開幕戦で2連覇

2シーズン目を迎えた三菱地所JCLプロロードレースツアー。今年も初戦2戦は、宇都宮ブリッツェンの地元・栃木県が舞台だ。

第1戦のカンセキ真岡芳賀ロードレースは、真岡井頭公園をスタート・フィニッシュとし、真岡市と芳賀町をまたいで設けられた周回コース1周7.2kmを18周する129.6km。初年度には叶わなかった有観客での開催となった。

コースは昨年同様の平坦基調。増田成幸が昨シーズン開幕戦勝利を飾った縁起の良い大会でもあり、監督の清水裕輔は「地元のレースは落とさずしつ

かり勝ちたい」と意気込みを見せた。

🏆 アベタカ、逃げに乗る

細かいアタックが続く中、レースに動きが出たのは4周回目。宇都宮ブリッツェンのアベタカこと阿部高之に加え、小石祐馬選手（チーム右京相模原）、谷順成選手（那須ブラーゼン）、バトムンク・マラルエルデン選手（レバンテフジ静岡）による逃げ集団が形成された。一方、後続マイ

ン集団は宇都宮ブリッツェンやキナシレーシングチームが中心となってコントロールしていたこともあり、阿部は逃げのローテーションにはあ

の走りを見せる。

🏆 小野寺、ロードレース初優勝

後続メイン集団は小さな落車もあり、20名弱まで人数が減る。宇都宮ブリッツェンは増田と宮崎泰史が前を牽引し、後方では小野寺玲がフィニッシュに向けて脚を溜める。増田の連覇はもちろん、スプリントを得意とするオノデラライダーでも勝負できるのが宇都宮ブリッツェンの強みだ。

レース終盤は風速4.7m/sと風がスタート時よりも強くなっていた。残り2周になると先頭でもふるい落としが始まり、カバナ選手、小石選手、谷選手、そして阿部が生き残る。後方とは一時2分ほど開いたタイム差が30秒差まで縮み、4名で最終周回に入ると直後に増田ら後続が合流。瞬く間に最後のアタック合戦が始まり、小石選手の動きに増田、宮崎が反応し、畑中勇

介選手（キナシ）、渡邊諒馬選手（V川福岡）が続くも、小野寺は後ろで時を待つ。

フィニッシュまで500mを切ると増田がラストスパートで抜け出し、スプリンターの畑中選手がそれを追うが、小野寺も見逃さない。2対1の戦いは増田が逃げ切るようにも思ったが、畑中の加速も力強い。小野寺は、増田がこのまま差されてはならないと、自身もスプリント。結果、最も力のあった小野寺が勝利。増田も同タイムで2位となり、地元開幕戦を昨年と同じく宇都宮ブリッツェンファンでフィニッシュで決めた。

優勝の小野寺は今季目標に掲げている「ロードレースで勝利」を、初戦にて完遂。また、JCLのイエロージャージ（個人総合リタイア賞）、ブルージャージ（スプリント賞）を獲得し、栃木県民賞にも選ばれた。また集団で精力的な動きを見せていた宮崎選手がベストアンストライダー賞となり、移籍直後から価値ある走りを魅せてくれた。

カンセキ清原クリテリウム 宇都宮ブリッツェン小野寺 イエロージャージ (個人総合時間賞)

小野寺の大会5連覇に掛ける

カンセキ宇都宮清原クリテリウムは、8年前に「宇都宮クリテリウム」として誕生した、お馴染みのレースだ。前日同様に有観客での開催となり、多くのファンの熱気に包まれた。

舞台は清原工業団地、1周2.2kmを23周する50.6kmの特設コースだ。2つの直角コーナーと3つの180度ターンで構成され、単純なレイアウトだがコーナーごとの加減速が脚を削る。

このコースを得意とする宇都宮ブリッツェンの小野寺玲には大会5連覇の期待が寄せられていた。

逃げが決まらず混戦に

レースはスタート直後から選手たちのアタック合戦があるものの、逃げは決まらない。集団はスパークルおおいにレーシングチームなどスプリンターを擁するチームが積極的に前を引き、宇都宮ブリッツェンも阿部嵩之が集団前方に加わりペダルを回す。そのまま大きな動きはなく5周目、最終コーナー前で単独で飛び出した阿曾圭佑選手(ワイクトワール広島)が最初のスプリントポイントを獲得。

集団では主導権争いが行われ、10周目のスプリントポイントに向けて

チーム右京相模原やVC福岡、レバンテフジ静岡も動きを見せてくる。その中で、フィニッシュライン手前で抜け出した孫崎大樹選手(スパークルおおい)が10周目をトップ通過。一方でなかなか逃げが決まらずレースは後半戦へ。ようやく12周で3名の逃げが決まるかと思われたが、宮崎泰史がすかさずチェックを入れて追走。前日はベストアシストライダー賞を獲得したが、この日もチームのために脚を使っ

落車発生。小野寺が!!

動きが出たのは14周に入って。小石祐馬選手(チーム右京)のアタックに向川尚樹選手(VC福岡)が反応。後続に10秒の差をつけるが、集団もしばらく逃げを泳がせる。そのまま15周目のスプリントポイントは小石選手が獲得し、タイム差も13秒まで開いた。やがて、宇都宮ブリッツェン、那須ブラーゼン、スパークルおおいながら集団前方を固めてレースは終盤に入る。18周で仕掛けたのは最初のスプリントポイントを獲得した阿曾選手で、そのまま単独で前方二人を追い始める。すると

後続も活性化し、一気に先頭と差を詰めた。逃げていた向川選手は足を緩めたが、小石選手は単独で踏み続けた。その直後にコーナーで落車が発生し、5連覇のかかる小野寺も巻き込まれ、番手を下げてしまう。ただ、大事には至らず、増田成幸らチームメイトのアシストで前方へすかさず復帰する。

連覇の難しさを実感

残り2周となりスピードの上がつた集団は小石選手も吸収した。一つになった集団前方で宇都宮ブリッツェンは阿部宮崎、増田の順でトレインを形成し、小野寺の力を温存しながら突き進む。ファイナルラップはキナランレーシングチーム、那須ブラーゼンもペースを上げる。最終コーナーは増田が小野寺を牽引してターンするが、そのイン側から攻めてきたのが沢田桂太郎選手らスパークルおおい勢だ。好位置でスプリント勝負に持ち込めた沢田選手が優勝をもち取り、孫崎選手が3位。アウト側から入ることになった小野寺は5位に。「5連覇を意識しないようにと思っていたが、やはりプレッシャーがあった」と、ゴール後に語る小野寺。「連覇が途絶えてしまったこと、勝てなかったことは悔しい」と肩を落とすが、「次のレースで晴らしたい。負けたが、多くのファンの前で2日間走られて本当に嬉しかった」と前を向く。

小野寺はイエロージャージ、ブルージャージをキープ。またここでも栃木県民賞を獲得した。





ツアー・オブ・ジャパン 2022

信州飯田→富士山→相模原→東京

宮崎泰史 新人賞

3年ぶりの有観客で行われたツアー・オブ・ジャパン(以下TOJ)。宇都宮ブリツェンは個人総合連覇を狙った増田成幸が総合4位となったが、今年加入の宮崎泰史が新人賞を獲得して宇都宮にジャージを持ち帰ることができた。

力勝負で負けた総合4位

第1ステージ「信州飯田」は山岳周回レース。終盤で先頭集団に残ったのはたった6名。ここに宇都宮ブリツェンから増田と宮崎が入ったが、本場欧州のレースも知るチーム右京のベンジャミン・タイボール選手とネイサン・アール選手も生き残った。結果、アール選手が優勝、3秒遅れの2位にタイボール選手、31秒遅れで増田が3位となった。

翌日の第2ステージは「富士山」だ。スタートこそ富士スピードウェイだが、後半は最大勾配22%のふじあざみライオンが待ち受けるヒルクライム。ここでもアール選手、タイボール選手が1位、2位、昨年富士山を制した増田は、アール選手に2分4秒遅れて5位に。総合成績も前日から1つ下げ、そのまま最終日を迎える形に。「望んだ最高の結果ではないが、思うような走りができず

に沈んだのではない。納得はしている」と言う増田は、日本選手最高順位の総合4位で今TOJを終えることになる。

勝負を分けるタイミングと運

第3ステージ「相模原」は冷たい雨に打たれながらアタック合戦が続く消耗戦となった。その中で宮崎が勝ち逃げに乗ったが、チェーン落ちて離脱。逃げに選手を送り込むことは叶わず、EFエデュケーション・NIPPOデヴエロップメントチームの岡篤志選手がステージを制した。

最終日、第4ステージ「東京」は大井埠頭でのド平坦のクリテリウム。宇都宮ブリツェンは小野寺玲に賭け、レースは予想通りのスプリント勝負となったが、最終コーナー後に伸びを見せられず小野寺は10位。レイモンド・クレター選手(チーム右京)が勝利した。「最後までプラン通りだったが、TOJの難しさは最後の1周。そこでかみ合わず、決めきれなかった。タイミングと運も悪かった」と語る小野寺だが、今回のTOJ信州飯田を11位で終えるなど、苦意思識の克服になった。「さらにステップアップして増田さんのように勝ちを狙える存在になりたい」

プロフェッショナルの走り

今年のTOJで最も記憶に残った選手は阿部嵩之かもしれない。阿部は第2ステージ、約60kmもの距離を一人で集団牽引した。この日の阿部の順位は出走70人中の70位。数字だけを見たらただの最終走者だが、レース後に他チームの選手から「ありがとございませう」と言葉がかけられたと言う。昨年からは「ヒザに痛みを抱えていながら「休めるところは休み、それでもいい仕事をやるのが大事」と語る阿部は、まさに経験豊富なプロフェッショナルと言える。

期待のホープ

初日に獲得した新人賞ジャージを守り抜いた宮崎。昨年は九州のスパークルおおいで走っていたが、「強い人の下で学びたい」という気持ちで、栃木の地を踏ませた。「僕がブリツェンに入っていなかったら、ここまで成長できたかわからない」とあどけなく笑った。初めてのTOJで総合9位、日本人選手だけなら総合4位の成績を残した。「増田さんぐらい走れるようになりたい」と偉大な先輩の背中を追って、宮崎はこれからも羽ばたくだろう。

2022年のTOJはチーム右京のアール選手が総合優勝。外国勢に歯が立たなかったが、「どこまで行っても満足はない。さらなる成長を見据えて進む」。

増田の言葉は宇都宮ブリツェンをより高めへと導く。

ツール・ド・熊野2022

赤城川↓熊野山岳↓太地半島周回

増田成幸総合4位

日本棚田百選に選ばれた丸山千枚田やクジラの町・太地町の美しい海岸線などを舞台に、3つのステージで開催されたツール・ド・熊野。総合争いの行方は、単純なゴール勝負ではないところで決まり、増田成幸は総合4位となった。

明暗を分けたボーナスタイム

ある選手が言った。「自転車ロードレースは負けるスポーツだ」と。チーム戦ではあるが、個人に順位がつく。1位の選手を「勝ち」とするならば、それ以下は「負け」。それを受け、今回のツール・ド・熊野（以下熊野）の成績を見てみよう。各ステージの勝者は、

- 1st 窪木選手（プリチストン）
- 2st キンテロ選手（マトリックス）
- 3st カバナ選手（ウィクトワール）

一方、総合順位は、

- 1位 アール選手（チーム右京）
- 2位 松田選手（プリチストン）
- 3位 小林選手（マトリックス）

つまり、総合トップ3は、今回の熊野で一度も「勝っていない」。ではなぜか？ 今回はステージ勝負が拮抗し、ネイサン・アール選手が初日で取ったボーナスタイム（2位で入ったので総合タイムから6秒マイナス）を、彼は最後まで守り切って総合優勝となった

のである。ここが総合積算時間を争うステージレースの難しきで、ボーナスタイム獲得のための動きは、ステージレースでは必要なことだが、まずはステージ勝利という「勝ち」を狙うには、脚を使う中間の動きは捨てるべき場合もある。特に今回6人中3人がリタイアと言っチーム状況。その中で増田の総合4位は、今ある精一杯の成績と言えるのではないだろうか。

それぞれが不可欠な存在

今回痛手だったのはTOJ新人賞の宮崎泰史を落車で欠いたことだ。初日のわずか2周目の落車でろつ骨を強打し、タイムオーバーとなった。勝負に

タラレバはないが、もし宮崎がいたら千枚田でアシストもでき、勝ち逃げに乗り、増田の表彰台も、宮崎の再びの新人賞もあったかもしれない。悔しさをにじませた宮崎だが、外から見るレース現場も勉強になったという前向きな発言もあり、次のレースに期待

したい。

残った3人の内のひとり、アシストの阿部高之。彼がレース中、集団のどこにいるかと言え、阿部ポジションにいないと言っている。阿部はいつも阿部がいるべき場所にいる。今回のステージでそれが顕著に表れたのが第3ステージだ。1周目から積極的に逃げに乗り、その逃げがつかまったときに、バンクをし、集団に復帰したらすぐに目の前にできた逃げに飛び乗る。力尽きて集団に下がったときも、これ

不幸中の幸いか、増田の機材トラブルからの復帰をアシストしている。TOJに引き続き、リザルトには出ない働きを、阿部は遂行していた。そしてもうひとり、小野寺玲。今オフは増田に稽古をつけてもらい、脚の強化にも取り組んできた。その効果の現われか、今回の熊野で小野寺はひそかに自分の成長を感じていた。「以前より余裕があり、チームの動きも意識できたし、周りも見えるようになっていた」と言っ小野寺。「まだ少し話

めが甘い、目指している方向は間違っていないと思うので、より強化して、勝利をもっと近づけられるようにしていきたい」と前を見る。個人総合成績は19位。ステージレースで20位以内は初めてと言っから、小野寺のアップグレードはすでに進行しているようだ。

そして、チームが3人になっても、単騎で戦えるのが増田の強さだ。総合順位に関係する選手には食らいつきながら同タイムでゴールするなど、勝負所を外さなかった。今年はチーム在籍11年目。自身の勝利を目指しつつも、後進の育成にも力を入れる。「チームにはまだ課題があるなど感じた3日間だった」と言っ、「ここ数年で、マトリックス、キナン、右京、今回は愛三もいい動きをしていたし、強いチームが増えた」と振り返り、「僕たちも強い宇都宮ブリッツェンを取り戻すために、チーム全体で上げていきたい」と語る増田。そしてポツリとつけ加えた「そう、強く思っている」と。



【15W×40L】



地域貢献 朝のあいさつ・交通安全運動

ハロー・セーフティ・プロジェクト



5月20日(金)新たな地域貢献活動「宇都宮ブリッツェン朝のあいさつ・交通安全運動」ハロー・セーフティ・プロジェクト」を行いました。

宇都宮ブリッツェンからは西村大輝選手、貝原選手が参加。その他、ブリッツェンラヴァーズのY.U.U・ヒライトくんも参加し、通勤・通学ラッシュの時間帯(7時30分~8時30分)の桜二丁目交差点で、朝のあいさつと交通安全を呼びかけました。

今回は、宇都宮中央警察署様をはじめ、交通安全協会様、宇都宮市役所、文星芸術大学附属高等学校、宇都宮文星女子高等学校など40名を超える多くの方々と協力して実施。宇都宮市街地のメイン通りに位置する桜二丁目交差点は、半径2km以内に高校が6校集まる地域のため、通勤・通学時間帯は大変多くの自転車が行き交う場所。自転車事故を減らすために、交通ルールや自動車、歩行者と道路を共有するマナーをチラシやパネルを使って呼びかけました。

第2回は6月24日に宇都宮東警察署様と宇都宮駅西口広場で、第3回は7月8日に再び宇都宮中央警察署様と中心市街地商店街広場(オリオンスクエア)で実施。宇都宮ブリッツェンは、今後も継続的な活動を通して地域の皆様と協力した交通安全運動「ハロー・セーフティ・プロジェクト」を続けて行きます。

地域貢献 自転車安全教室

受講者 60,000人到達!



2008年のチーム設立当初より実施している「宇都宮ブリッツェン自転車安全教室」。6月7日に実施された栃木県立宇都宮南高校の自転車安全教室で、累計受講者数6万人に到達しました。

自転車を利用することが多い子どもたちに、安全と命を守るため、そして自転車の楽しさと交通ルール・マナーの大切さを伝えるために、宇都宮ブリッツェンに所属している選手が講師役として県内各教育機関に訪問しています。

危険を見落としがちな交差点の通り方、雨天時のブレーキテクニック、車のドライバールーが感じる自転車の迷惑運転など、選手と児童・生徒が自転車に乗りながら実践的に学び、保育園・幼稚園では紙芝居を使って楽しくわかりやすい内容で実施しています。

宇都宮ブリッツェンは、これからも受講者10万人を目指して各教育機関と連携し活動を続けます。



今月の沼野郎

日本一クセつよ自転車選手 小野寺 玲



トップガン沼はどこまでも

このページはトップガンアンセムを
脳内再生しながら見てくれよ!!

ツール・ド・熊野の記事、読んでいただけましたか？ 僕は僕なりにステージレースへの手応えを掴むべく頑張ったのですが、もうひとつ、「トップガンマーヴェリックの公開初日に観に行けない」という悲しみとも戦っていました(涙) そう！

僕はトップガンが大好きなのです！ 熊野から帰って、レプリカジャケット&リーブイスのジープ&レイバンのサン格拉斯という「正装で、映画を観に行けたのは言うまでもありません。そして劇中でトム・

クルーズが駆るオートバイと言えばカワサキのGPZ900R!! 僕もマーヴェリックと同じモノに乗り、夕陽をバックに写真を撮りたいなど願望はありますが、GPZの維持費にはとても自信が持てず

(汗)、僕が相棒に選んだのが、ジャン、このNinja1000! (GPZ900Rの愛称がニンジャでした)

原型は左の写真の通りの姿でしたが、この外装をGPZ900Rルックに変更するというプロジェクトを立ち上げたのが2020年7月。それから約1年をかけて、ゴツゴツとパーツを揃え(途中、ネット詐欺にも会った)、カウルを替え、セパレートハンドルを垂らして絞り、エクステンションの長さを変更し、純正形状のミラーとスクリーンを購入し、ウインカーはフロントがポジション点灯するように変更、元々2灯ヘッドライトだったものを1灯ヘッドライトに替えて加工...などなど、とにかくこだわりをこらわ抜いて仕上げ、下の写真のようなTOPGUNニンジャが爆誕しました! ぜひトップガンアンセムを脳内再生しながらご覧ください!

今後は映画ポスター風の撮影や、作中のワンシーンの再現など、やってみたいことがたくさんあるのですが、そこで欠かせないプロンド美女がいまません(爆)。「我こそは!」という、革ジャンとジープとブーツを着こなせる方がいましたら、



▲これがプロジェクト遂行前のNinja1000



▲カウル買ってきて仮合わせ

▼カラー&ステッカーまで完全再現



▲完成! かかった日数約365日。元の色は一切残っていないオールペン!

ぜひ協力して頂きたいです。オノデライダーの愛車自慢でした! それではまた。



Onoderider blog



7月のおすすめグッズ

Official Goods



今月のおすすめグッズは ガチサコッシュ

調整金具やファスナーを使わず、軽量でコンパクトに折り畳めるシンプルなサコッシュ。シワになりにくい素材を使うなど、携帯性と使い勝手の良さとことごとくこだわって作ったガチなサコッシュです。サイクリングやお出かけに1つあると便利なアイテムです。

- 本体サイズ W370mm×H300mm
- ストラップサイズ W25mm×L1000mm
- ¥2,500 (税込)



online shop <https://blitzen.theshop.jp/>



次号予告

Next issue

レースレポート

- ・全日本自転車競技選手権大会 ロード・レース
- ・JCL BANK LEAGUE 東予選 宇都宮ステージ
- ・ヒロシマロードレース

今月の沼野郎

次号の沼野郎は早くも大御所が登場。
清水裕輔監督の「地酒で乾杯!」。この夏に絶対外せない厳選地酒について、記事スペースが許す限り語っていただきます。
清水監督に聞きたいこともメールで受付中!
件名に「乾杯!!」を入れてお送りください。

allez@blitzen.co.jp

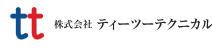


Race & Event Schedule

- 7/2 (sat) JCL BANK LEAGUE 宇都宮
- 7/9 (sat) JCL 広島トヨタ広島ロードレース
- 7/10 (sun) JCL 広島トヨタ広島クリテリウム
- 7/23 (sat) ブリッツェンファンクラブイベント
～ブリッツェンフェスティバル～
- 8/6 (sat) JCL 大分 (調整中)
- 8/7 (sun) JCL 大分 (調整中)



私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。



Thank you for your support

